



TITLE:

十一月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

十一月の天象. 天界 1929, 10(104): 24-27

ISSUE DATE:

1929-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161478>

RIGHT:

十一月の天象

太 陽

日	赤 經	赤 緯	星 座	視直径
1	14時22分52秒	南14度13分	てんびん	32分18秒
11	15 2 38	17 14	てんびん	32 23
21	15 43 47	19 46	てんびん	32 27
(31)	16 26 17	21 42	へびつかひ	32 30

月始め天蝸宮にあるが、23日より人馬宮に侵入する。今月始め頃は時差が負の最大(負16分20秒)となる。1日午後7時より同9時にかけて金環食があるが我國からは見えない。

月

月の相	時 刻	星 座	視直径
新 月	1日午後 9時 0分54秒	てんびん	30分42秒
上 弦	9 午後11 9 48	や ぎ	29 45
満 月	17 午前 9 14 12	ひつじ	32 28
下 弦	24 午前 1 4 18	し し	32 5
遠地点通過	7 午後 8 0	い て	29 34
近地点通過	19 午後 2 48	ふたご	32 57

月は2日午後4時に火星に追附いて、その南側僅かに半度の所を通る。次いで、5日午後8時には土星を追越して、同じく南側4度半の所を通り過ぎる。更らに13日夜半には天王星と出合ひ、此れの南側2度半の所をすれ違つて進む。そして18日午後5時半には木星と出合つて、その北側3度半の所をすれ違ふ。24日午前3時に海王星に追ひ付いて、北側4度半の所を通り過ぎる。最後に、29日夜半に金星を追越して、南側2度の所を通り過ぎて今月の遊星歴訪を終る。

日 食 (金環食)

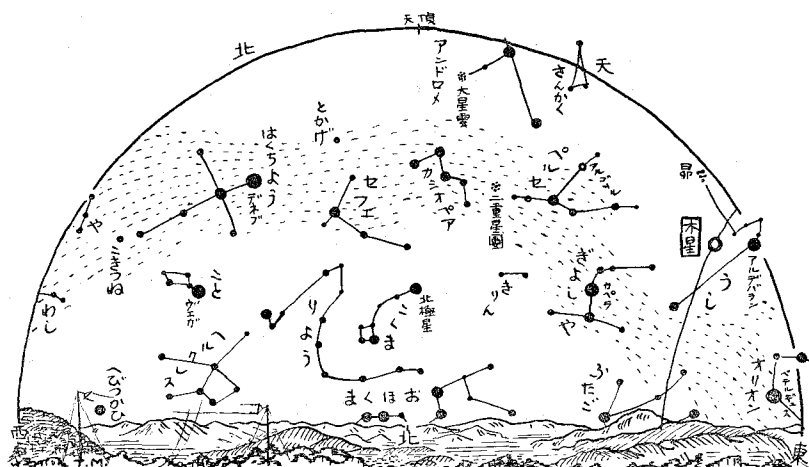
本月1日午後6時から11時に渡つて金環食がある。此れの見える範囲は、北米カナダの東端の一部分から始まつて、大西洋の全部、スカンジナビヤ

半島の東北部及びロシアを除いた歐洲の大部分、アフリカ並びにマダガスカル島の全部、及び小アジア地方、印度洋の西半分を包含する地方である。食の始まりは午後6時12分。金環食の始まりは7時19分。同終りは10時51分、食の終りは11時57分であつて、アフリカの中央西海岸では繼續時間が3分58秒に達する。

木星の衛星

今月の遊星界に於いて、最も觀望に適し、且つ興味のあるものは木星の一族であらう。殊にその4個の衛星は、プリズム入八倍の双眼鏡でも、條件のよい時は認める事が出来る程であるから、太陽や月に次いで最も素人向きの天體である。木星は「をうし」座にありて、夕刻東天に昇る。丁度、天の最も賑やかな部分たるオリオン星座やヒヤデス星團の近くに在つて、肉眼的にも興味があるが、小型望遠鏡で四個の衛星が、時々刻々に運動する状態を眺めるのは、裕も太陽系の運動を示す小模型の感があつて、實に面白い。四個の衛星は第1(イオ)は週期1.8日、光度5等半、第2(エウロパ)は週期3.6日、光度6等、第3(ガニメド)は週期7.2日、光度5等、第4(カリスト)は週期16.8日、光度6等、今月中の4衛星の現象の内最も分り易い處の、食、掩蔽及び經過の時刻のみを天文年鑑から拔萃しやう。且つ、最も見易い時刻即ち宵から夜半前までのものを記す。

2日11時11分(凡て午後)第「3」の經過始まる(經過は東側より木星面上を經過して西邊に進む)。4日10時47分第「2」の經過始まる。5日9時57分48秒第「1」の食始まる(今月の食は凡て木星の西側で起る)。6日7時54分「2」掩蔽出現(今月は凡て木星の東側)。同7時57分「1」經過始まり、同10時6分に終る。7日7時18分「1」掩蔽出現。12日11時52分24秒「1」食始。13日6時43分36秒「2」食始まりて同10時9分に掩蔽出現。又同9時40分「1」經過始まりて同11時50分經過終る。14日6時20分54秒「1」食始まりて同9時2分掩蔽出現。20日9時18分0秒「2」食始まる。同9時29分「3」掩蔽出現。同11時25分「1」經過始まる。21日8時15分36秒に食始まりて、同10時47分に掩蔽出現。22日4時30分「2」經過始まりて、同6時52分終る。又同5時50分「1」經過始まりて、同8時0分終る。27日9時49分48秒「3」食始まる。同11時52分36秒「2」食始まる。28日10時10分24秒「1」食始まる。29日6時44分「2」經過始まりて同9時7分終る。又同7時34分「1」經過始まり9時43分終る。30日4時39分12秒「1」食始まりて、同6時56分掩蔽出現。

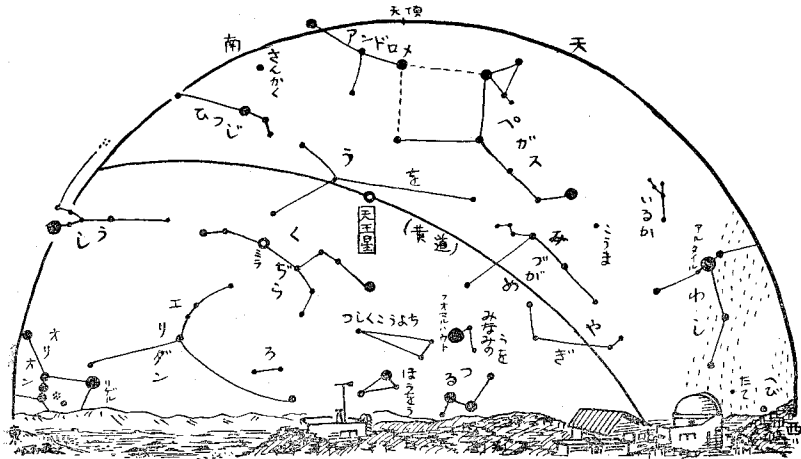


恒星界

北斗は全く地下に没して、夏の代表者「いて」や「わし」、「こみ」等も西空に影淡く、僅かに名残りを留めてゐる。今や「アンドロメ」、「ペガス」は天頂に來り、彼のアンドロメ大星雲は頭上に在りて、肉眼にても指呼し得る。「カシオペア」、「ペルセ」も高く、有名な二重星團は、双眼鏡の良き對稱物である。南天の「ホウマルハウト」を除いては、巨星は東北部に集中された感あり。殊に東天に今現はれた「オリオン」のあざやかな對稱形は此の上なく美しく、「うし」座のヒヤデス、此れに近き木星等と共に、全天中最も賑やかな部分を形作つてゐる。

流星群

星の林の中を獵人の矢の様に、流星が飛ぶ。此の矢の方向を見定めると學界に三つて貴重な、獲物が得られる。この月の流星群には可なり著しいものがある。「しし」座流星群、「アンドロメ」座流星群、「ひつじ」座流星群等。特に「しし」のは甚だ顯著なものである。出現時期は13日より18日頃に渡りて、「しし」座が星附近を輻射點として現はれる。同じ頃に「ひつじ」のは、同座39星附近に輻射點を持つ。「アンドロメ」のは22日より26日頃にかけて、同座が星附近を輻射點として現はれる。



遊 星 界

水 星 曉の星であつて、「をさめ」座スピカ星の近くを順行して、月末には「さそり」座アンタレス星附近まで達する。月末の29日夜半に火星に追付いて其の南側僅かに半度の所を通り過ぎる。観望には月始め程よく、月末には太陽に甚だ近いので見られぬ。月始めの視直径は6秒、光度負1等。

金 星 曉に見え、「をさめ」座の中央から順行して、「てんびん」座の中央まで到る。太陽に近く視直径も10秒餘となり、光度も負3等で観望には適しない。

火 星 太陽に近く観望不能。

木 星 「をうし」座の α 星ミべ星との丁度中間に位す。宵に東天に現はれるから観望には好都合。視直径44秒。月末には本年最大の視直径45秒になる。光度も最大輝負2.4等なる。

土 星 宵の星であるがぐんぐん太陽に近くなるから、月始め程観望に適する。位置は「いて」座の西端。視直径14秒。光度1等。

天王星 宵の星。「うを」座44星に向つて逆行中。光度6等。視直径3秒餘。

海王星 夜半後に東天に現はれる。「しし」座44星に近い。光度8等。視直径2秒餘。